



TSUYUKUSA

## 年頭所感

院長 柿木 滋夫



新年あけましておめでとうございます。昨年は根雪が早くその後の大雪が心配されましたが年末年始は穏やかな日々となり穏やかな新年を迎えられたことと思います。

昨年は、自動車業界においては燃費不正、無資格者による検査などの問題がありました。医療にも通じる問題で今後ますます患者さんに寄り添い安全・安心の医療の提供が重要です。当院では、昨年6月からPFM（患者支援センター）が本格稼働し入院から退院、在宅までのシームレスで患者さんに寄り添った医療を提供できるようになりました。

10月には、呼吸器病センターにおいて、気胸センターとしても24時間対応できる体制となり、地域の皆様にとっては大変心強いものとなったと思います。また、医療安全管理室、感染対策管理室において専従者を配置できるようになり今まで以上に患者さんの安全安心に寄り添った良質の医療を提供できるものと思います。

今年4月から休止していた分娩を再開できるめどが立ちました。これもひとえに地域の皆様のご支援ご協力のおかげとっております。札幌医科大学産婦人科・北海道社会事業協会（小樽病院）・北後志周産期医療協議会の三者で契約締結式が行われ、今後分娩再開へ向けて着実に準備し安全で安心できる出産ができるようにして参ります。今後も地域の皆様のご期待に添えるように頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

今年は「戌年」ですが、犬は古くから人間に寄り添いながら愛されてきた動物でいまだに多くの人から愛され続けています。小樽協会病院も理念にあるように地域の皆様に寄り添った良質な医療の提供を職員一丸となって心がけてまいります。

最後になりますが、今年が皆様にとって良い年となることを願って新年のあいさつといたします。

## 新年のご挨拶

事務部次長 下山 達也



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいいたします。また、各関係機関、連携医療機関及びお取引業者様におかれましては日頃より小樽協会病院へのご理解とご協力を頂き、心より感謝致します。

当院は本年4月より周産期医療を再開する事となりました。これは、北後志周産期医療協議会に係る方々の強い情熱と誠意の賜物と感じております。約2年半の休止により小樽市または近郊にお住いの方にはご不便をお掛けしておりました。その間、後志管内のお産を一手に担っていた小樽レディースクリニック、助産師外来を継続して頂いた手稲溪仁会の先生と職員の皆様には感謝と敬意を表します。私共は一昨年より高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自立した生活を送れるように、医療・介護・介護予防・住まい等の日常生活の支援が包括的に提供される体制「地域包括ケアシステム」の構築に着手しております。そこに、兼ねてより準備していた周産期医療センターを稼働し安心してこどもを産み育てる地域を目指して参ります。私ども小樽協会病院はこの高齢化社会と少子化対策の一翼を担うよう地域のため、そして地域住民から必要とされる病院を目指し職員一同取り組んで参ります。本年もご支援ご協力をよろしくお願い致します。

## 新年のご挨拶

看護部長 川畑いづみ



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいいたします。

本年は、本院の懸案事項でした産科医療を再開できる運びとなりました。関係する多くの皆様の努力がなければ実現不可能な大きな課題でした。感謝申し上げます。職員一丸となって成功させる覚悟でおります。看護部は助産師確保、定着、育成に努力して参りたいと思います。

看護部として今年一年大切にしたいことは、第1に安全で安心できる、そして人々の尊厳を重視できるよう努力してまいります。そして、高度医療を支える専門性を高めること、さらに、「暮らし」というフィールドにたち、住民の皆様が安心して住み慣れた地域で暮らせるよう行動してまいります。

今年も、ご指導いただきますようお願い申し上げます。  
皆様にとって良き年でありますよう祈念申し上げます。

## 第28回地域連携シンポジウムを終えて



平成29年9月7日に小樽協会病院講堂にて、第28回地域連携シンポジウムを開催いたしました。市内近郊の開業医の先生方をはじめ、慢性期病院の先生方、老健施設の施設長、地域のケアマネジャーの方々を含め、総勢115名のご出席を賜りました。第一三共製薬株式会社との共催にて行われ、準備段階から御協力いただきました。今回からテーマを絞り、コメディカルの方にもご協力を得て、発表していただきました。

シンポジウムはⅠ部、Ⅱ部に分かれ、Ⅰ部は当院循環器科主任医長の山田先生より、「急性冠症候群患者に対する抗血小板薬の使い方」のテーマで、これまでのデータを踏まえながら抗血小板薬の使い方を分かりやすくご講演いただき、アンケートでもわかりやすかったと好評でした。

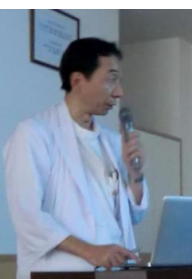
Ⅱ部では、直江クリニックの直江院長を座長にお迎えし、「乳癌について」というテーマで会の進行をお願いいたしました。当院診療放射線科の浦屋技師、病理診断科の飛岡先生、外科の進藤先生にご講演いただきました。



最初に診療放射線科の浦屋技師から「当院のマンモグラフィについて」というテーマで、実際の撮影した画像を見ながら、通常マンモグラフィでは、高濃度乳房の場合だと鑑別が難しく、超音波検査との併用は必要であること、また、乳房を挟み込む理由など分かりやすく講演していただきました。質問として「検査では乳房を挟み込むが、なぜ正面からなのか？下に向けて行った方が負担にならないのではないか？」など活発な意見が聞かれました。



病理診断科の飛岡先生からは「予後の良い乳がん、悪い乳がん」というテーマで、病理という立場から見た内容でスライドを交えながらわかりやすく講演いただきました。ホルマリンに入れる時間の大切さについてなど、少々専門的でしたが、普段あまり聞けない貴重なお話を伺うことが出来ました。



外科の進藤先生からは「当院における高齢者乳癌治療の現況」というテーマで、これまでの診療データや事例を踏まえながらご講演いただきました。脳梗塞など別の病気で入院した方はいるものの、乳がんの治療を当院で行った方たちの予後は良好であることなどをお話ししていただきました。

今回参加いただきました先生方からも多数質問があり、充実したシンポジウムになりました。お弁当が足りなくなるくらい、大変多くの方にご参加いただきありがとうございました。座長の労をとっていただきました直江

先生をはじめ、お越しいただきました各医療機関、老健施設の先生方、各居宅支援事業所のケアマネジャーの方々にお礼を申し上げます。次回も興味深いテーマを用意させていただきますので、プログラムが出来次第、ご案内申し上げます。次回もご参加くださりますようお願いいたします。





## 呼吸器病センター気胸部門開設について

皆さますでにご存じとは思いますが、2014(平成26)年12月15日に小樽協会病院に呼吸器病センターが開設されました。この度、2017(平成29)年10月に呼吸器病センター内にて気胸疾患を中心に診療する気胸部門(気胸センター)を設立いたしました。

気胸は若年男性に多い疾患ではありますが、近年、喫煙の影響で肺気腫を基礎疾患とした高齢者の気胸も増加しております。肺気腫に続発した気胸は繰り返し易いことで難治性のことも多く、治療として保存的治療(胸腔ドレナージ)を第一に、手術、気管支塞栓術、ゆ着治療などを組み合わせて治療を行っています。気胸は男性の患者さんのみではなく、最近では女性の患者さんも増加傾向です。女性の場合は生理に関係して起こる月経随伴性気胸(異所性子宮内膜症)などのまれな病気が隠れている場合があります、注意が必要です。気胸に関し何かございましたら当部門(気胸センター)にお気軽にご相談ください。小樽市内あるいは近隣市町村の自然気胸患者さんの受け入れを行っています。当部門(気胸センター)は、以下の【受診方法】に従って24時間、365日受け入れ可能です。若年の自然気胸から高齢者の続発性気胸まで、年齢層も幅広く受け入れを行っています。外科手術以外にも様々な方法により気胸の治療を行っています。

### 【受診方法】

当部門(気胸センター)初診となる患者さんは平日診療以外の時間帯はまず、診療所・医院・病院・夜間急病センター・休日の当番病院などを受診していただき、気胸の確定診断をつけていただく必要があります。その後、気胸が判明したのち、担当医から当気胸部門(気胸センター)外科・呼吸器外科当番医師に連絡していただければ24時間、365日いつでも対応させていただきます。当部門(気胸センター)受診歴のある患者さんは直接の来院が可能です。平日診療時間内(月～金AM8:30-17:00)では外科・呼吸器外科外来を窓口としております。

\*交通外傷等の高エネルギー外傷を伴う外傷性気胸については恐れ入りますが三次医療機関(手稲溪仁会病院など)へのご相談をお願いします。

## 第8回ふれあい健康教室を開催いたしました

昨年の11月18日、市民公開講座「第8回ふれあい健康教室 気胸ってどんな病気?～気胸を知る・防ぐ・治す～」を開催いたしました。今回は初の試みとして当院2階講堂にて行われました。院内開催ということでどれほどのお客様がお見えになるか不安もありましたが蓋を開けてみますと約50名の方々にご参加いただくことが出来ました。また、気胸と言う病気のせいでしょうか、会場には若い男性の方も多く見られました

初めに石川呼吸器外科主任医長から、気胸とはどんな病気であるのかとその治療について、また今回の気胸センターの立ち上げによる当院の紹介が行われました。次にリハビリテーション科堀科長より呼吸器のリハビリテーションについて、最後に画像診断科渡辺科長より低線量 CT による肺がん検診についてのお話をさせて頂きました。会場には約 50 名の方々にご参加いただくことが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。

次回は雪が解けたころの開催を予定いたしております。多くの方々に集まりただけるお話を企画しようと思っております。皆様のご参加をお待ちいたしております。



小樽協会病院の「気胸部門」  
**通年で患者に対応**  
 設置2ヶ月、20人治療

小樽協会病院（小樽市住江1、柿木滋夫院長）が

昨秋、呼吸器病センター内に新設した「気胸部門」が成果を上げている。突然の発作に苦しむ気胸の症状に対応し、年中無休の受け入れ態勢を整備。2カ月余りで約20人が治療を受け、健康を取り戻しつつある。気胸とは、肺に穴が空き

同病棟の気胸部門は昨年10月、後志管内で初めて開設。これまで約20人が受診し、市外から救急搬送されたり他施設からの紹介で受診する患者も多い。治療は胸腔にたまった空気を抜く方法のほか、空気漏れしている肺の一部を切除する手術などを行う。

今年15日、昨年末に突然の胸痛で来院し、気胸の手術を受けた小樽市内の男子大学生（18）が、退院後初の受診に訪れていた。「通学中に初めて胸の激痛に襲われ驚いた。すぐに対応してもらえ、大学にも復帰できた」と笑顔を見せた。

呼吸器外科医の石川慶大同センター長は、「日中の外来診療時間外は市の夜間急病センターなどを通じて24時間365日受け入れていく。気胸に悩む患者の助けになれば」と話している。（元井麻里子）

昨秋、呼吸器病センター内に新設した「気胸部門」が成果を上げている。突然の発作に苦しむ気胸の症状に対応し、年中無休の受け入れ態勢を整備。2カ月余りで約20人が治療を受け、健康を取り戻しつつある。気胸とは、肺に穴が空き

同病棟の気胸部門は昨年10月、後志管内で初めて開設。これまで約20人が受診し、市外から救急搬送されたり他施設からの紹介で受診する患者も多い。治療は胸腔にたまった空気を抜く方法のほか、空気漏れしている肺の一部を切除する手術などを行う。

今年15日、昨年末に突然の胸痛で来院し、気胸の手術を受けた小樽市内の男子大学生（18）が、退院後初の受診に訪れていた。「通学中に初めて胸の激痛に襲われ驚いた。すぐに対応してもらえ、大学にも復帰できた」と笑顔を見せた。

呼吸器外科医の石川慶大同センター長は、「日中の外来診療時間外は市の夜間急病センターなどを通じて24時間365日受け入れていく。気胸に悩む患者の助けになれば」と話している。（元井麻里子）

北海道新聞に気胸部門が掲載されました  
 (平成 30 年 1 月 25 日朝刊)



## 無料巡回診療報告

小樽協会病院では、後志地区の地域住民の健康管理のため、無料巡回診療を年2回実施しています。1回目は10月21日（土）に仁木町銀山生活改善センターにて、医師1名（長井先生）、看護師2名（小田看護師、野口看護師）、臨床検査室2名（新倉係長、早川技師）医事課1名（関口係長）、地域医療福祉連携室2名（青山、長谷川）の参加で実施されました。

当日は天候に恵まれ、住民の方たちが予定開始時刻よりも早く集まり、我々の体制が整い次第の診療開始となりました。当初の診療希望者数は13名でしたが、当日に妻からの強い勧めによって、追加で1名の方が検査を希望。合計で14名の診療実施となりました。住民の方たちにお話を伺うと、この会場で医師の診察と合わせて、心電図・ABI・腹部エコー等の検査が手軽に受けられることが、検診への参加希望に繋がっているのだと感じました。また今回の診療希望者の中には、会場までの移動手段がない方がおり、当院職員が送迎対応をしたところ、大変喜んでいただけました。高齢の方が多い地域でもあるため、今後も要望があれば、会場までの送迎対応を含めて、巡回診療を実施していきたいと思えます。

2回目は12月2日（土）に仁木町尾根内会館にて、医師1名（長井先生）、看護師1名（野口看護師）、臨床検査室3名（寺田科長代理、加野技師、田中技師）、総務課1名（初山主任）、地域医療福祉連携室2名（谷澤、長谷川）の参加で実施されました。12月ということもあり冷え込みが厳しく、雪が降り積もる中での実施となりましたが、検診を申し込まれていた9名全員が来所されました。住民の方たちからは、「朝早くからありがとう」、「是非、来年も来て欲しい」等の感謝の言葉をいただきました。巡回診療の実施内容は、銀山と同様となっていますが、前回使用した小型の検査機材が準備できず、当院で普段より使用している大型の機材で対応することとなりました。使い慣れた機材のため、時間を掛けずに検査を行うことが出来ましたが、大型のため運搬用の車への搬入に手間取り、必要な物品が手配していたレンタカー2台だけでは積み込めないといったトラブルが発生し、物品を同行する職員の車に分けて運搬する対応となりました。当日は積雪量が多く、路面状態が悪かったこともあり、参加職員の中からは、運搬用のレンタカーをより大型のサイズに変更する、4輪駆動車への変更等、多数の要望が出ており、課題の残るものとなりました。

例年のこととはなっていますが、今回の巡回診療でも、お忙しい中で、仁木町役場の保健師の方からのご協力をいただいております。当日の会場での問診や血圧測定等の対応と合わせて、準備段階からサポートをしていただき、大変助かりました。ありがとうございました。早速、来年度の無料巡回診療の希望日程も伝えてもらっています。今回の実施で明らかになった課題点を見直して、次回の巡回診療がより良いものと



なるがんサロンの活動報告

当院では平成 29 年の 7 月から毎月第 1 土曜日にがんサロン「しらかば会」を行っています。初回の 7 月は竹藪副院長、8 月の谷岡薬剤師、9 月の金澤緩和ケア認定看護師、10 月・11 月の笑いヨガ、12 月の室田管理栄養士、平成 30 年の 1 月坂理学療法士、2 月の佐藤認定がん専門相談員がそれぞれミニ講座を行い、その後に参加して下さった患者様・ご家族様と交流会を行なっていました。

10 月・11 月には講師の櫻井 英代先生にお越しいただき、「笑いヨガ」を行いました。笑いヨガとは笑いの体操とヨガの呼吸法を組み合わせたエクササイズで、参加された皆様には、笑顔あふれる時間をお過ごしいただけたと思います。

櫻井先生の笑いヨガは大好評のため、3 月、6 月、9 月、10 月に「笑いヨガ」を行っていただく予定です。3 月より、院外の患者様もがんサロンに参加していただけるようになりました。参加を希望される患者様・ご家族様がいらっしゃいましたら、お待ちしております！



## 小樽協会病院クリスマスコンサート



すっかり定着いたしましたクリスマスコンサート、昨年 12 月 21 日に双葉高等学校音楽部の皆様をお迎えして開催されました。竹藪副院長がサンタクロースに扮して会場を盛り上げる中、一階ロビーでの吹奏楽の音色が響き渡りました。一階ロビーは少し寒かったですが、患者様やお見舞いの人々、



当院職員みんなが感動したコンサートでした。

## 保育園にサンタがやってきた！

小樽協会病院に併設されている保育園「たるっ子」にクリスマスにプレゼントを持ったサンタとトナカイがやってきました。突然の訪問に興奮する子、泣きじゃくる子、先生の後ろに隠れてこちらをうかがう子、毎年いろいろな子供たちに出会えますが、いつも最後には大歓迎されるサンタさんでした。





## 小樽協会病院分娩再開へ

私たち職員にとっては勿論、地域の皆様にとっても大変嬉しいニュースが報道されました。

小樽市の小樽協会病院（北海道社会事業協会小樽病院）で、医師不足で休止となっていた分娩（ぶんべん）が来年4月から約2年9月ぶりに再開されることが決まった。札幌医大から産婦人科医が派遣され、現在の非常勤医師と合わせて3～4人態勢で診療と分娩にあたる。人口減少や過疎化が進む道内では、医師不足の影響で分娩に対応できる医療機関が減少しており、地域的な偏在も課題となっている。同病院はリスクの高いお産を扱う道の周産期母子医療センターに後志で唯一指定されているが、2015年7月から分娩が休止。小樽市内で出産できる医療機関は医師1人の有床診療所1カ所という状態が続き、周辺町村からも分娩再開を求める声があがっていた。道や小樽市、北後志5町村などは昨年5月、北後志周産期医療協議会を立ち上げ、同病院の分娩再開に向けて支援策を協議。陣痛から分娩、産後の回復まで同一の部屋でできる「LDR室」の改修を済ませ、来春から全面再開を目指す。（北海道新聞より抜粋）

平成29年12月19日に、北後志周産期医療協議会、札幌医科大学産婦人科学講座、北海道社会事業協会三者による「北後志地域における周産期医療の確保に関する協定書」が小樽市役所において締結されました。札幌医大の斎藤豪教授は「自分の地元でお産ができ、子どもが生まれ、みんなで喜ぶことができる病院づくりをしたい」と話し、同病院を運営する道社会事業協会の吉田秀明理事長は「再出発で重要なのは安全確実に指導すること。地域、行政、大学の期待に応えられる病院にしたい」と述べました。現在はおよそ3年ぶりとなる分娩再開に向け、万全の体制を整えるよう準備に全力を注いでいます。皆様の変わらぬご協力とご尽力をお願いいたします。



編集後記：雪の降り始めが早かったこの冬。本州にも最強寒波襲来。ニュースを見るたびに都会の寒さや雪に対する防御力の弱さにあきれてしまいます。数センチ積もった雪のせいで大渋滞の道路を見ると北海道はすごいなと心から思います。（渡辺）



小樽協会病院広報誌“つゆくさ” NO.54

発行：小樽協会病院編集委員会

発行日：平成30年1月

発行人：柿木 滋夫

編集委員長：渡辺 直輝